

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

学校名【扶桑町立扶桑東小学校】

1 実践テーマ	【I・III・IV・V】												
2 実施対象者	<p>全校</p> <table border="1"> <tr> <td>1年生</td> <td>2年生</td> <td>3年生</td> <td>4年生</td> <td>5年生</td> <td>6年生</td> </tr> <tr> <td>48人</td> <td>65人</td> <td>64人</td> <td>62人</td> <td>62人</td> <td>64人</td> </tr> </table> <p>※ 事前学習は5年生を中心に実施した。</p>	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	48人	65人	64人	62人	62人	64人
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生								
48人	65人	64人	62人	62人	64人								
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (道徳・総合的な学習の時間)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (集会)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>												
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・ (パラ) スポーツおよびパラリンピックに対する興味関心を高めるようにする。 ・ 勇気を出して困難と向き合い、乗り越えるための努力を続け、前向きな姿勢で生きる大切さに気付き、実践意欲を高めるようにする。 ・ 互いの違いも認め合い、個性を尊重し合える関係を築くことの大切さに気付き、実践意欲を高めるようにする。 ・ 相手の立場に立って物事を考えたり、「みんなが気持ちよく過ごすにはどうすればよいか」という視点から物事を考えたりすることの大切さに気付き、実践意欲を高めるようにする。 												
5 取組内容	<p>1 アスリートの出前授業 (6月 全校 1時間)</p> <p>境川部屋の協力を得て、佐田の海関を本校に招いた。 児童は、佐田の海関の話から、目標をもち、目標に向かって努力することの大切さを学んだ。全校児童が順番に力士と相撲を取る体験も行った。力士を土俵(マット)から押し出そうと夢中でぶつかる中で、アスリートのすごさを実感した。</p>  <p>2 福祉実践教室 (5月～11月 5年生 6時間)</p> <p>扶桑町社会福祉協議会の協力を得て、目や耳、足の不自由な方を講師として招き、「手話」「点字」「アイマスク」「盲導犬」「車いす」</p>												

体験を行ったり、講師の先生から話を聞いたりした。

児童は、障がいについての理解を深めた。障がいをもつ人の困り感を知るとともに、少しの勇気と思ひやりで自分たちも力になれることに気付いた。また、講師の先生の姿から、障がいの有無に関係なく前向きに生きることの大切さを実感し、普段の生活から相手の気持ちを考えて行動しようという気持ちを高めた。



3 パラリンピックについて知る（10月 5年生 1時間）

各学級で、国際パラリンピック委員会公認教材を活用し、①パラリンピックの歴史と変遷、②シンボル「スリー・アギトス」、③4つの価値（「勇気」「強い意志」「インスピレーション」「公平」）、④種目や使用される用具等について、クイズ形式で楽しく学んだ。



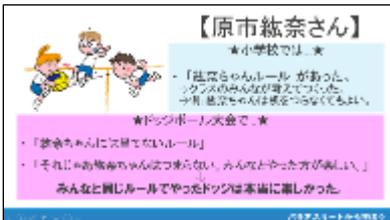
4 パラアスリートの生き方から学ぶ（11月 5年生 2時間）

各学級で、国際パラリンピック委員会公認教材を活用し、車いすバスケットボールの選手である①香西宏昭選手と②原市紘奈選手を題材に、1時間ずつ道德の授業を行った。

①の授業では、香西選手のプロフィールを確認しながら、すごいと思うところと大変そうだと思うところを話し合ったり、香西選手のインタビュー動画を見たりすることを通して、パラリンピックの価値である「勇気」「強い意志」「インスピレーション」について、自分事として捉えながら理解を深めた。



②の授業では、障がいがある人もない人も、共にスポーツを楽しむための工夫について原市選手の小学校時代にあった出来事を基に話し合い、パラリンピックの価値の1つである「公平」について、自分事として捉えながら理解を深めた。



5 パラリンピックと出前授業の事前説明（12月 全校 朝会）

朝会時、校長からパラリンピックの概要と、出前授業で講師としてやってくるパラアスリートの紹介および体験内容の説明があった。児童は、新たな出会いと新たな体験を楽しみにしている様子であった。

6 パラスポーツ出前授業（保護者自由参加）

（1）ボッチャ体験（12月 1・2年生 各学年1時間）

扶桑町総合型地域スポーツクラブ「わっと楽しくスポーツふそう」で活動する西岡秀子さんを講師として招いた。

ボッチャをはじめとするパラリンピックの種目について、イラストを示すなど、分かりやすく説明してもらったことで、児童はパラリンピックに対する理解を深めることができた。



体験は小グループに分かれて行った。低学年でもルールを無理なく理解し、夢中になって楽しく取り組むことができた。

(2) 共生社会について学ぶ(12月 3・4年生 2時間)

「あすチャレ!ジュニアアカデミー」プログラムを活用し、バンクーバーパラリンピック銀メダリストの馬島誠選手を講師として招いた。

①講師の自己紹介とパラスポーツとの出会い、②車椅子での生活の話、③パラリンピックについて知ろう、④視覚障がいについて知ろう、⑤聴覚障がいについて知ろうという流れで児童は学習に取り組んだ。

児童は、馬島選手の話を通して、障がいをもつ人の困り感を知るとともに、自分たちも力になれることに気付いた。「自分を支えてくれる存在に対する感謝の気持ち」をもつこと、「自分のできないことではなく自分のできることは何か」と考えて行動すること、「自分のためだけでなく誰かのために頑張る」ことの大切さを実感し、自分自身に生かしていこうという気持ちを高めた。



また、じゃんけんゲームや伝言ゲームを楽しく行う中で、視覚障がいや聴覚障がいについて理解を深めた。

さらに、パラリンピックの動画を分かりやすく解説してもらいながら見ることで、パラリンピック(パラスポーツ)に関する興味関心を高めることができた。

(3) 車いすバスケットボール体験(12月 5・6年生 2時間)

「社会応援ネットワーク パラスポーツ応援プロジェクト」プログラムを活用し、名古屋の車いすバスケットボールチーム「ワールドBBC」に所属する神谷泰範選手、竹中久雄選手、児玉真也選手、竹内厚志選手を講師として招いた。



①選手のプレイを見よう、②競技用車椅子を操作しよう(全員体験)、③(選手と共に)試合をしよう、⑤質疑応答という流れで学習に取り組んだ。



①選手のデモンストレーションでは、ボールと車椅子を自在に操る高いテクニック、流れるような動きの連係、高いシュート成功率や車椅子同士が激しくぶつかり合う様子



	<p>を目の当たりにし、児童は選手のすごさと競技の魅力を実感し、体験への意欲を高めた。</p> <p>②競技用車椅子の操作体験は全員が行った。児童は、福祉実践教室において車椅子の操作を既に行っている。一般的な車椅子との違いに驚きながら、児童は楽しく車椅子を操作した。選手が、児童1人1人と並走する形でアドバイスをしてくれたため、より安全に体験活動を進めることができた。</p> <p>③ゲームは、児童対児童（希望者）の形で、選手に1人ずつ入ってもらい行った。各チームに入った選手が、ゲームを上手にコントロールしてくれたため、ゲームに参加したどの児童もドリブルやパス、シュートを行うことができ、夢中になってプレイした。観戦する児童や保護者も大いに盛り上がり、体育館には大きな歓声が上がっていた。選手・プレイヤー児童・観戦児童・保護者が一体となり、立場関係なく、心からスポーツを楽しむ時間となった。</p> <p>④質疑応答で、多くの児童が自分から進んで質問をしていた。質問を通して、車椅子で生活する中で感じることや競技と出会ったきっかけ、人として選手として大切にしている思いなどを学ぶことができた。</p> <p>車いすバスケットボールの体験を通して、児童は「見る」という視点も含めたスポーツの楽しさをよりよく味わうことができた。また、明るく前向きに活動する選手の姿から、障がいの有無に関わらず、困難を乗り越え、前向きな姿勢で生きることの大切さを学ぶことができた。（多くの児童がお礼の手紙に書いていた）</p> <p>7 お礼の手紙（12月 全校 1時間）</p> <p>出前授業が終わった後、お世話になった講師の先生方に対してお礼の手紙を書いた。学びを振り返り、自分自身にどう生かすかを考える機会、感謝の気持ちを持ち、形に表す機会となった。</p>
6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ （パラ）スポーツおよびパラリンピックに対する興味関心を高めた。 ○ 困難と向き合い、前向きな姿勢で生きる大切さについてよりよく学んだ。 ○ 互いの違いも認め合い、個性を尊重し合える関係を築くことの大切さについてよりよく学んだ。 ○ 相手の立場に立って物事を考えたり、「自分のためだけでなく、みんなのために」という視点から物事を考えたりすることの大切さについてよりよく学んだ。 ○ 人材を効果的に活用し、よりよい学びを得た。 ○ （5年生に関して）これまでの福祉学習と道徳の授業、パラリンピックの出前授業に繋がりをもたせることで、よりよい学びを得た。
7実践において工夫した点（事業の特色）	<ul style="list-style-type: none"> ・ パラスポーツ出前授業「ボッチャ体験」に関して、扶桑町の総合体育館および総合型地域スポーツクラブに依頼し、実現した。

8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材の活用は、よりよい学びに繋がり、2020 年も継続して行いたい。日程や内容の調整が難しいことがある。また、予算面も含め、学校単独で講師を確保することは困難であり、県や町の支援が必要になる。 ● 5年生は、国際パラリンピック委員会公認教材を活用しながら、福祉学習と道徳の授業、パラリンピックの出前授業を関連付けて行った。授業参観の機会を利用し、保護者に理解を促した。 一連の取組を、学級担任として負担なく計画、実施したので、他学年でも国際パラリンピック委員会公認教材を活用しながら他教科と関連付けて行い、児童の学びをよりよいものにしていく必要がある。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ① 全校を対象にした国際パラリンピック委員会公認教材の活用 ② 体育や総合的な学習の時間におけるパラスポーツ体験 <ul style="list-style-type: none"> ・ シットイングバレーボール ・ ゴールボール ・ ボッチャ ・ ガイドランナー ③ オリンピック・パラリンピックに関する新聞記事まとめ(高学年) 本校は、新聞を活用した学習に取り組んでいる。来年度は NIE 実践指定校となる予定であり、新聞のよりよい活用方法を考え、学校全体で実践していく。その1つとして、以下の活動に取り組んでいきたい。 【5年生】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師から配付されたオリンピック・パラリンピックの新聞記事を読み、5W1Hを落とさずに内容をまとめ、記事に対する自分の考えを書く。 【6年生】 <ul style="list-style-type: none"> ・ オリンピック・パラリンピックに関する新聞記事を自分で集めて整理する。テーマを決めて取り上げる記事を選び、B紙にレイアウトを工夫しながら貼っていく。各記事の概要や記事に対する自分の考えも別紙にまとめてB紙に貼り、新聞切り抜き作品として見やすく仕上げる。